

町田市長

石阪 丈一殿

2021年2月3日

少人数学級を実現する会

## 要望書

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私たち少人数学級を実現する会は、1月13日に要望書を提出しましたが、町田市の事務局のみなさま・まちだの新たな学校づくり審議会のみなさま、市議会文教社会常任委員会のみなさまにお詫みいただきありがとうございました。また、1月25日の審議会におきましても、熱心なそして誠意のこもった論議をしていただきましたこと、会員一同感激致しております。誠にありがとうございました。

先日の審議会では、堺地区の統合校が相原小・堺中に決まりまして、安堵いたしております。しかし、そうなりますと、ゆくのき学園が廃校になる可能性が出てきましたので、再度要望書を提出いたします。

1月25日の資料11と事務局の説明によれば、4点の主な特長があるものの、児童・生徒数が減っていることや開校以来単学級が続いている事の弊害、また、野球やサッカーなどの人数の多い部活ができないなどによって、保護者の一部から不満の内容のアンケートがあったことが報告されました。その後、審議会のみなさまから、デメリットはあるものの廃校にするには惜しいというご意見も話されました。

私たちは、ゆくのき学園は町田市にとってなくてはならない学校だと思っております。この度様々な方から聞き取り調査をしましたので、その内容をしたため、要望いたします。

大戸地区の歴史・文化財・方言・民話などについて調べていた時の事です。あるお年を召した方に、「相原小から分かれて大戸分教場を2回作っているのですが、どうしてですか？」と尋ねました。そうすると、その方は、

「交通の便が不便だということももちろんあったが、一番大きな理由は、大戸の地区に学校があった方が良く考えたからだ。小学校は、近い方がいい！歩ける方がいい！大戸地区は八王子の近くまであるからね。今の戸小まででも歩いたら30分くらいはかかる。だから、大戸分教場は、今の相原幼稚園の所に作ったのだ。俺たちはもうあと10年もすれば死んでしまうだろう。しかし、子ども達は、これからの社会を担っていくのだ。この大戸の自然や地域の人達の思いを忘れないでほしいのだ。団地ができて、子どもの数が増えて、新しい学校が建つと聞いた時は、ほんとに喜んだものだった。大戸小学校は、この地域の宝だよ。」

と、このように教えてくださいました。

2012年小中一貫ゆくのき学園が開校してから、施設一体型一貫校であることを生かした充実した小中連携を行ってきました。そのことは、2020・3・20付のまちだの教育に詳しく掲載されています。コロナの流行により、直接見学することはできませんが、ゆくのき学園のホームページの「学校生活」

に大変詳しく掲載されておりますので、いくつかご紹介したいと思います。写真は、ホームページの写真を撮らせていただきました。

### 1. 自然環境を生かした教育

町田市西のはずれに位置しておりますので、都会には近いが自然がたくさん残っております。また、校地の中には自然林（大戸の森）があり、昔の雑木林の面影を残しております。コナラ・ヒノキ・イヌシデ・コゴメウツギなど約30種類の樹木が自生しており、タヌキ・野ウサギ・イタチなどの動物、キジバト・シジュウカラなどの鳥、また、カブトムシ・クワガタも住んでおります。

北側には、相武カントリークラブと法政大学が隣接しており、高いビルが建つ事がない、ほとんど自然のままのところ。また、少し西に行くと、大地沢青少年センターもあります。



大戸の森に蜜をしかけた



ハンモック作り



大地沢で林業体験

また、大戸小の敷地の南側から、清水が湧いていたことから、大戸小10周年記念事業により、地域のみなさまの助けを借りて、「蛍の里」を作りました。6月になると、子ども達は蛍が飛び交う姿を見ることが出来ます。そして、20周年記念事業では、中庭にビオトープを作りました。そこでは、ヤギ2頭（2代目）シロとハクを育てています。



蛍の里の清掃



雪をかぶったビオトープ



ヤギのシロとハク

大戸小と武蔵岡中では、同じ給食室で温かくおいしい給食を作っており、食の大切さも学んでおります。お米と麦を作って、収穫した米・麦は、給食の時、みんなでいただきます。これらの作業は、地域の方々が手伝ってくださったり、教えてくれたりしています。



稲刈り



藁で、縄を作る



麦畑を耕してもらう

## 2, きれいな学習環境を作る

開校当時から「花のきれいな学校」として町田市から表彰されています。それは、児童生徒が全員で花の苗を植えたり、水をあげたり世話をしているからです。また、ゆくのき学園になったとき、校庭が芝生になりました。この芝生を美しく保つために、児童生徒はじめ、地域の方々、教職員が「芝生の日」を決めて芝生の世話をしています。



芝生の日



花苗の植え込み



美しい花

## 3, 縦割り班活動で仲良く

年間を通して縦割り班活動の時間を設け、学年が違って名前を覚え、大きい子も小さい子も遊びを通じて仲良くなっていきます。小さい時からの良い人間関係は、中学生になっても続きます。



6年生のリーダーシップで



名前を覚えようゲーム



縦割り班活動

## 4, 小・中教員による相互乗り入れ授業の実施

小・中学校教員それぞれの教員がお互いの授業に参加する連携授業を日常的に行うことで、きめ細やかな指導や専門性を生かした指導を行っています。(1・25資料11より)  
先生方は、小学校・中学校すべての子ども達の名前を知っているそうです。



理科の授業



骨の学習



中1が小1に教える

## 5, 小学校5年生からの中学校部活動への参加



バスケットボール



バドミントン



卓球

## 6, 地域や近隣の大学との連携による多様な教育活動

地域、学生との連携・協力して、中学校の放課後自主学習の場である「学びの場」と補充学習や小学生の放課後学習教室「ゆくのき塾」、体験学習などを実施しています。(同資料11より)



ゆくのき塾



放課後英語教室



期末試験前補習

## 7, 少人数ならではの授業

大人数の学校では得られない、ていねいな授業を受けることができます。



琴の授業



柔道の授業



英語の授業



ピオトープ出前授業



育休中の先生に生命の誕生を学ぶ



心肺蘇生法を学ぶ

## 8, 合同運動会をはじめとする各種合同行事

合同運動会や児童会と生徒会が協力して全校生徒が参加するレクリエーションを企画するなど、小学生と中学生による合同行事を実施しています。(同資料11より)

生徒会・児童会は、多くの学校で自治の力がなかなか育たないという悩みがありますが、ゆくのき学園では、立ち合い演説も行われ、公正な役員選挙も行われています。



生徒会役員選挙



学習発表会



運動会

ホームページを読みながら、大変素晴らしい教育活動をされている事に、感動致しました。他の小中学校には見られない学校生活がこの学校にあります。先生方の教育にかける情熱と地域の方々の学校を愛する心がなければできない教育内容です。

このように様々な教育活動を計画し、実践することはとても時間がかかる、困難なことに違いないと思いますが、このようなことができるのは、どうしてか？と考えてみました。

例えば、中学生に「1年生に体育の授業をしたらどうだろうか？」と提案したとします。他の学校なら、「どうしてそんな面倒な事をやるのか？」「ちびとなんかやりたくない！」「そんなことをやるよりも、俺たちだけでサッカーやりたーい。」という声が上がらないでしょうか？

でも、ゆくのき学園の中学生たちは、嬉々として小学生に教えています。これは、小学生の時から、縦割り班活動で低学年の時は、上の学年の子から教えてもらう楽しさを教えてもらい、高学年になったら、リーダーシップをとる責任を自覚して、中学生になっているからではないでしょうか。教え教えられることがふつうになっています。この力は、卒業してどんな職業に就く場合も必要な力だと思います。

生きる力を育てると言いますが、9年間の間にこうした生きる力が育っていると言えるのではないのでしょうか。

また、ゆくのき学園では、周りの自然環境を生かした教育活動を実践しております。他の学校で、このような事をやりたくともできないです。

お米を作り、麦を作り、糶を作る、この作業には、トラクターを持って来て、耕してくれる人がいる、稲刈りを教えてくれる人がいる、糶を作る機械を持って来てくれる人がいる。ハンモックづくりを教えてくれる人、蜜の作り方を教えてくれる人、木の切り方を教えてくれる人など地域にはこうしたスタッフが多いのです。

ゆくのき学園は、地域とともに歩む学校と行っても過言ではないと思います。

ゆくのき学園には、数人ですが、学区外からゆくのき学園を選んで入学・転校されるお子さんがおられると聞いております。このようなお子さんを受け入れて、育てていることも聞いております。入って来られたお子さんも、先生方の手厚い指導と子ども達の励ましを受け、自分に自信を持ち、リーダーとして成長したお子さんもおられます。

大人数の学校では、自分を見失いかけた子も、少人数の学校で過ごすことによって、様々な体験を通して、人間のやさしさにふれたり、動物に触れあうことによって、心が潤ってくるお子さんもおられます。もし、ゆくのき学園が廃校になったら、少人数の学校でようやく自信を取り戻したのに、大人数の学校に長い時間をかけて登校することによって、また、自信を失うことになるのではないかと心配しております。

1月25日の審議会で、事務局の方から、不登校児のための学校について少し言及がありましたが、不登校児だけを集めることは、あまり良い事だとは言えないという研究が一般的です。不登校児は、何らかの理由で自分に自信を失ってしまったと考えられます。コロナによって休校が行われましたが、6月に分散登校になり、クラスの人数が半分になったら、登校するようになったという報告もあります。少人

数学級が、その子に自信を与えてくれたと言っても良いかもしれません。

かつての大戸小・武蔵岡中の卒業生が選んだ職業は、看護師・介護士・保育士・葬祭業・リサイクル業・建設業・建築業など人間に直接関わる仕事が多いようです。皆さんが自信を持って生きております。そして、かつて自分達が勉強した大戸小・武蔵岡中の学区に、結婚と同時に親世代の近くに住む人も少なくありません。子ども達がこの地域を愛しているからです。

以上の事から言えるのは、学力は点数だけではないということです。これからの時代、単なる知識の詰め込みだけの受け身の教育では役に立ちません。知識を応用し、いろいろな課題解決に取り組む力、集団の中で自らの能力を主体的・積極的に発揮する力が求められます。

このゆくのき学園には、本当の意味での学力を育てる原点があると思います。この学校を選んだ子ども・保護者が、2020年度では、大戸小131人、武蔵岡中74人いて、地域・教職員が一体となって研究し作り上げているということに、2012年小中一貫教育「ゆくのき学園」を構想し、設立した町田市は、自信を持って良いのではないかと思います。2016年に国も小中一貫教育を提唱しているわけですから、ゆくのき学園の教育の成果を全国に向けて発信するときではないでしょうか。ゆくのき学園があまりにも知られていないことがとても残念です。

2020年、コロナの流行によって、人々の生活、動向が変わってきました。コンクリートのビルの中から、緑の多い地域への移住が言われるようになってきました。リモートでできる仕事に移行する会社が増えてきたからです。町田市も都会に近く、しかも緑の多い自然豊かな地域としてこれからも発展して行ってほしいと思っております。

大戸の地域も、自然を求める人たちが集まってくることは確かです。町田市もゆくのき学園を存続させたことは、先見の明があったと言われるようになることでしょう。

町田市長、まちだの新たな学校づくり審議会のみなさま、教育委員会のみなさま、市議会文教社会常任委員会のみなさま、町田市事務局のみなさま、私たちは、みなさまの賢明なご判断を信じて、下記のように要望いたします。

## 記

1. 小中一貫校「ゆくのき学園」を廃校にしないでください。

少人数学級を実現する会